

地方創生交付金に係る事業評価表
(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)			⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑦ 外部有識者からの評価	
				指標	指標値	目標年月	実績値	事業効果	今後の方針	今後の方針の理由	事業の評価	外部有識者からの意見
1	近江に根ざして120年・「近江鉄道」沿線魅力再発見・創出事業	加速化	3,853,000	観光入込客数	3,300,000人/年	平成29年3月	3,239,700人/年	地方創生に相当程度効果があった	予定通り事業終了	実績値としては指標値を上回ることはできなかったものの、KPIの特性から単独で達成できるものではなく、本市がかかわった事業の「おいしがりやれしが電車」は、10月22日と23日の2日間実施し、2日間とも満員で延べ144人の参加があり、本市が単独で実施した「宿駅散策！近江鉄道沿線を巡るスタンプラリー」については、9月24日から12月21日まで実施し、約1,200人の参加があり、本事業は、近江鉄道や沿線市町の魅力を再発見することで活性化を図ることを目的としており、県内外の多くの方が120周年を迎えた歴史ある近江鉄道に触れることで、観光資源としての近江鉄道や、滋賀・彦根の魅力に改めて気づく機会となったものと評価している。 加速化交付金を活用した単年度事業であるが、次年度以降も近江鉄道と沿線市町が協働連携しながら沿線地域が一体となって、鉄道やバス利用を核とした観光誘客事業を実施していくことで、公共交通利用者ならびに観光客の増加を図りながら交流人口の拡大を図る。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・ 今回の事業を通じ「近江鉄道沿線地域活性化協議会」が設置されたことは、取組を継続していく上で評価できる。 ・ 近江鉄道沿線の自治体が協力し合って役割分担して、沿線地域を活性化するような取組であり、評価できる。
2	光とアートで発信する付加価値創造(ブランディング)事業	加速化	48,118,000	観光消費額	19,000百万円	平成29年3月	16,600百万円	地方創生に効果があった	予定通り事業終了	交付金による事業は終了となるが、平成29年度も引き続き市補助金により、ライトアップ事業については、実施する予定である。 今後は、観光協会や商店街連盟等の実施している他イベントと相乗的に実施するため、関係機関との連携を促進するとともに、宿泊者数の増加に繋がる取り組みを進めていく。 また、KPI指標については、事業における具体的な効果を検証できる取り組み等を推進する。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・ ライトアップを行っている時間帯において、地元とタイアップし、消費を促すイベント等を企画すれば、消費がさらに伸びるのではないかと。 ・ 事業効果の測定をする際、例えば宿泊者数では、宿泊目的による分析や事業期間中の宿泊者等の視点など、キーポイントとなるデータ収集が必要ではないかと。また、滋賀大学データサイエンス学部などと連携すればどうか。
			延べ宿泊者数	337,500人	平成29年3月	391,600人	地方創生に効果があった					
3	近江「美食都市(ガストロノミック・シティ)」推進事業	推進	38,327,844	観光入込客数	3,300,000人/年 (本事業による増加分147,000人)	平成29年3月	3,239,700人/平成28年 ※観光入込客数が公表されているのは平成28年の数値だが、本事業が実施されたのは、平成29年2月からであった。ただし、実数値として「梅あかりと食の祭典」の来場者2,128人という数値はある。	地方創生に効果があった	追加等更に発展させる	事業実施団体である(一社)近江ツーリズムボードにおいては、別紙のとおり平成29年度も事業実施予定であり、市として補助金予算計上済みである。 平成28年度事業に関しては、計画事業に関しては、すべて実施はされているが、そもそも国の交付金採択が28年8月下旬であり、そこからの事業着手であったため、準備作業が中心とならざるを得ない状況であった。 よって、観光客を呼ぶイベントとしては「梅あかりと食の祭典」にとどまった。しかしながら、フードカーの導入など、誘客の土台作りとしては一定の成果があり、現在開催中の「彦根城築城410年祭」で活用するなど、事業実施主体による誘客イベントに期待が持てると考えている。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・ 食材のブランディングはすぐにはできないものではなく、長期的な視点で評価する必要がある。若手の一流料理人の育成面で一歩進んだと評価できる。 ・ 本事業で導入されたフードカーについては、現在開催中の「彦根城築城410年祭」において活躍する機会もあるため、今後効果が出てくるのではないかと期待している。